

山の百名花

岩崎 一郎

【99】ハクサンコザクラ

サクラソウ科サクラソウ属、湿原に群生する多年草。紅紫色の花が愛らしい。

6月6日、南蔵王を縦走してきた。蔵王の主峰は熊野岳である。熊野岳は日本百名山だから、皆さんをご案内して数回登っている。蔵王で登るべきは、熊野岳ばかりではない。北に雁戸山、西に瀧山、南に不忘山があり、それぞれ個性的で魅力ある山だ。雁戸山にも瀧山にも登っていて、不忘山だけ登り残していた。「ぼくのふるさと八百名山」として、宮城県から選んだ17山の内の1山である。ということで、刈田峠く屏風岳く不忘山く白石スキー場と歩いてきたのだ。

頭上には青空が広がる絶好の登山日和、歩き始めるとコミネザクラが歓迎のご挨拶。左右の斜面にはそこかしこにピンク色の斑がぼつぼつと出来ている。その向こうに朝日連峰や飯豊連峰も遠望出来て、気分がいい縦走路だ。屏風岳を越えて不忘山に向かう辺りから花が増えてきた。ハクサンイチ

ゲ、ハクサンコザクラ、ハクサンと冠が付く花は多い。

白山も大好きな山。だいぶ前になるが、加賀禅定道を下ったときのこと。足の踏み場も無いほどに、ハクサンコザクラが咲いていた。珍しい花ではないが、高山植物らしい花であると思う。



【100】マウントクッククリリー

自分勝手に世界五大名花というやつを決めている。まずは、アルプスのエーデルワイス、ヒマラヤのブルーポピー、ネパールのラリーグラス、カナディアンロッキーマウン

グレーシャーリリー、以上は北半球の花々。南半球から、ニュージーランドのマウントクックリリーを選んだ。

北半球と南半球では、夏冬が反対だ。12月、日本では日一日と寒さが増して行く季節だが、ニュージーランドは初夏、花の季節である。ニュージーランドには数回行っている。初めてのニュージーランドは、誰もが憧れる「世界で一番美しい散歩道」ミルフォードトラックを歩いた。年末年始、かの地では盛夏である。きれいなロッジに3泊、4日間で歩くのだが、一日目が晴れただけで残り三日は雨、マウントクックリリーに出逢った記憶がない。

マウントクックリリーとの鮮やかな出逢いは、2回目のルートバートラック、品があつて艶やかな白がこの花の魅力だ。ニュージーランドで最も有名な花。リリーと呼ぶが百合ではなく、キンポウゲ科の花。バターカップと呼ばれるキンポウゲ科の花なので、正式名称は、ジャイアント・バターカップである。

この花に盛られたバターを塗ったら、最高のバタートーストになるだろう。